



## 知名度は「資産」

1/19 地域審議会委員研修会

5地域の地域審議会委員の研修会が1月19日、交流学习センター「みらい」で開かれました。当日は約80人が参加。宮澤市長が市政への思いを語り、信州大学人文学部の村山研一教授が市町村合併や地域コミュニティの実態について講演しました。講演の中で村山教授は、「安曇野市の知名度やイメージは重要な資産であり、その資産価値を高めることこそ共通課題。市民が共通のコミュニティとして意識することが重要」と提言しました。



## 10万人目は、田沢の小沢さん

1/8 安曇野高橋節郎記念美術館

安曇野高橋節郎記念美術館の入館者数が1月8日、10万人に到達しました。平成15年6月にオープンしたこの美術館には、年間で1万2,000人ほどが来館しています。10万人目の来館者となったのは小沢昌子さん(55・豊科田沢)。「抽象的な作品の中にも、北アルプスなどの自然がモチーフになっていることが感じ取れました。芸術に触れることは心が豊かになることだと思います。友人にも紹介したい美術館です」と話してくれました。



## 式への出席率 5%増加

1/10 平成22年安曇野市成人式

「成人の日」の前日となる1月10日、安曇野市成人式が豊科南穂高の安曇野スイス村サンモリッツで開かれました。参加者全員が平成生まれとなる本年の式典は、761人の新成人が参加。出席率は昨年と比較して約5%増加しました。式典では、宮澤市長が「どのような道に進まれようとも、この安曇野を愛し、誇りを持って人生を歩んでほしい」と呼び掛けました。

その後、新成人代表の高橋美香子さんが市からの記念品を受け取り、中山兼一さんが「将来は環境の保護にかかわり、社会に貢献したい」と決意を述べました。

式典終了後の交流会では、毎年恒例となっている当時の給食が登場。参加者は懐かしい献立を囲みながら、恩師や友人との再会を楽しんでいました。

## 「団員確保。地域全体で受け止めて」

1/10 平成22年安曇野市消防団出初式

年始の恒例行事となっている安曇野市消防団出初式が1月10日、穂高会館で開かれ、参加した約600人の団員が防災の決意を新たにしました。

丸山一雄団長は「就業構造の変化により、消防団を取り巻く状況は年々厳しさを増し、とりわけ団員の確保は、存続に直結する大きな問題」と現状を述べ、「この問題を地域全体で受け止め、真剣に取り組むことで、消防団の発展、さらには地域の発展につながる」と強調しました。

市消防団は昨年、火災の出動や行方不明者の探索、豪雨による警戒などのほか、予防活動にも力を入れてきました。また、音楽喇叭隊が県ラッパ吹奏大会において、初の5位に入賞するなど、団員の士気を高める原動力として貢献しました。

本年9月26日には、県の総合防災訓練が豊科南部総合公園を主会場に行われる予定で、市の防災活動にとって、記録に残る年となりそうです。



## 乗ろうよ！ 札幌・福岡へ

1/26 県安曇野庁舎で、信州まつもと空港をPR

県安曇野庁舎に1月26日、信州まつもと空港の札幌線と福岡線の利用を呼び掛ける幕が掲げられました。この幕は、市が加盟する信州まつもと空港地元利用促進協議会(会長・菅谷昭松本市長)が作成したもので、札幌線、福岡線を引き継ぐフジドリームエアラインズ(FDA)の就航を歓迎するものです。6年前から毎年、観光で安曇野を訪れている福岡市職員の副田武さん(44)は「飛行機から見る富士山や北アルプスの山々をこれからも楽しめる」と存続を喜んでいました。



## 光る演技で「主演女優賞」

1/3 ABNふるさとCM大賞

ふるさとへの思いが込められた手作りCMの祭典、ふるさとCM大賞(ABN主催)。この最終審査の様子が1月3日放映され、あづみ野ビデオクラブ制作の「夢がふくらむあづみ野ガラス」が主演女優賞を受賞しました。

このCMは安曇野ガラス工房を舞台にシンデレラの舞踏会シーンを再現したものです。シンデレラ役の林田佳蓮さん(15)は「30秒の短いCMに多くの人がかかわって作られるのが分かり、良い経験ができました」と話してくれました。